

岡山大学附属図書館の平成22年十大ニュース

○将来構想（建物）をまとめて全学にアピールしたこと

平成21年秋から附属図書館運営委員会の下にWGを組織して検討してきた将来構想（建物）が5月にまとめ、運営委員会への報告・承認を経て、学長に報告し理解を得て、部局連絡会において報告し、附属図書館が目指すべき方向性を全学に対してアピールしたこと

○電子的情報資源の財政基盤安定による資料収集の充実が図れたこと

電子ジャーナル等の財政基盤が安定したことにより、平成23年度の電子ジャーナル等購読タイトルの決定がスムーズで、学生用図書購入経費も潤沢となり、多数の学生用図書を選択・購入することができ、図書資料の受入処理に新財務会計システムが適用できたことで受入処理がスムーズに流れるようになったこと

○遡及入力事業を再開したこと

高度情報化の基礎である所蔵資料情報の電子化は、カード体目録の電子化に力点を置いたため一時的休眠状態だったが、今年度から再び学内予算を得て基盤事業として再開、学術情報基盤形成を進める柱としたこと

○運営委員（教員）の協力を得て利用者（学生）アンケートを実施していること

学生の声を図書館運営に反映することは図書館経営上の指標であるため、図書館ではこれまで学生と館長（分館長）との懇談会を通して声を集約し改善してきたが、法人化後初めて学生への利用者アンケートを実施することとし、運営委員である教員の積極的な協力を得て進めていること

○リポジトリの整備・充実等による情報発信事業の展開が図れていること

岡山大学学術成果リポジトリのシステムを更新し二つのデータベースを統合したこと、科研費による遺跡資料リポジトリのデータ形成が進んでいること、岡山共同リポジトリの参加大学が増えたことなど、情報発信事業の展開が図れていること、また、附属図書館ホームページのリニューアルを行い大学のホームページとの類似性を高めたこと

○教員の研究成果を図書として岡山大学出版会から刊行し好評を得ていること

3年目に入った岡山大学出版会の活動によって、教員の研究成果をこれまでに12点図書として刊行し一定の評価が得られるようになってきたこと、中でも、附属図書館所蔵貴重資料である池田家文庫資料叢書の刊行を開始し、第1巻として「御留帳御舟手」を公刊したこと

○書庫にカビが多量に発生し除去作業に取り組んだこと

今夏の暑さによって、運用上の問題がさまざま指摘されていた書庫にカビが多量に発生し、職員が協力して除去作業に取り組んだが9月になっても収まらず、書庫環境の整備の必要性が痛感せられたこと

○池田家文庫を活用した公開講座・絵図展・講演会・ワークショップを開催したこと

公開講座「絵図を持って岡山・鳥城・後楽園・山陽道を歩こう」の開催、絵図展を岡山市デジタルミュージ

アムと共同開催、絵図展のテーマで講演会を開催、絵図展に中国四国地区の国立大学から共同展示の参加があった、教育学部と連携して「後楽園ワークショップ」を開催したこと

○鹿田分館において利用者が飛躍的に増加していること

鹿田分館においては、3階の情報端末室への入り口を図書館玄関からに変更したこと、鹿田分館における休館時の特別利用に関する要項を整備したこと等によって、24時間利用体制が整い、利用者が飛躍的に増加していること

○資源植物学研究所の一般公開への参画以外に分館独自に企画展示を実施していること

資源生物学研究所から全国共同利用の資源植物学研究所（植物研）となり、研究所の一般公開に合わせるだけでなく定期的な企画展示を植物研分館において実施したこと

（番外）

○学術情報部から附属図書館事務部となり事務組織の整備を進めたこと

学術情報基盤の整備として同じ土俵にあった情報と図書館が分離することとなり、4月から附属図書館事務部としてスタートしたが、運営方式や事務組織の再編が必要であり、図書館運営会議を発足させるとともに、事務組織にグループ制を導入して効率化を図り、担当する職員のキャリア形成に役立つキャリアガイドを作成し、図書館職員に必要な能力を明示し、職員の資質向上に役立てることとしたこと

○防災訓練＋防火訓練の実施等で安全衛生に努めたこと

附属図書館における安全衛生面での活動の一環で、津島地区の防災訓練に積極的に参加したこと、また、枯れてしまった黒正先生像広場の植木は植え替えることになったが、本館前の溝蓋は人が歩く度に喚いていたのを補修して沈静化させたこと

